

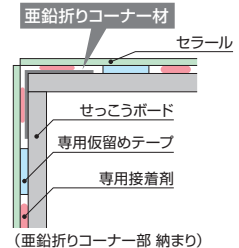
# 施工ガイド

## 設計・施工に関する下地のご注意 まずは施工可能かどうかをご確認ください。

### 1 下地を新設する場合

<p><b>施工可能な下地の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● せっこうボード (推奨 12.5mm以上)</li> <li>● けい酸カルシウム板 (推奨 6mm以上・比重0.8以上)</li> <li>● モルタル面 (含水率 4.5%以下・密着強度 1.0N/mm<sup>2</sup>以上・不陸2mm以下・平滑な金ゴテ仕上)</li> <li>● ラワン合板 (推奨 9mm以上)</li> </ul> <p>※上記の下地でも、化粧材の施工部分に塗装などの仕上げが施されると、接着不良によるハガレが発生する可能性がありますので、ご注意ください。</p> <p>※下地材の選定と構造が、建築基準法や火災予防条例などの法令・法規に適合したものであるか、ご確認ください。</p>	<p><b>そのままでは施工できない下地の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● RC壁への直貼り → モルタル仕上げ (下記 ②-③ 参照)</li> <li>● ALC躯体への直貼り → GL工法 (下記 ②-④ 参照) 及び鋼製壁作製 (下記 ②-⑤ 参照)</li> <li>● 湿気を帯びた下地 → 充分乾燥させる</li> </ul>
	<p><b>そのままでは施工できない環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施工場気温が5℃未満 → 気温を5℃超に上げてください。</li> <li>● 施工場の湿度が90%超 → 湿度を90%未満に下げてください。</li> <li>● 結露が予想される時 → 結露しないように対策を取ってください。</li> </ul>

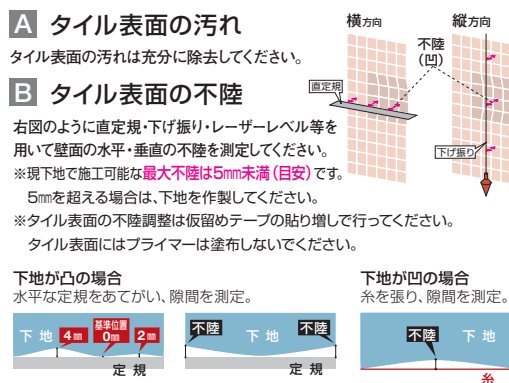

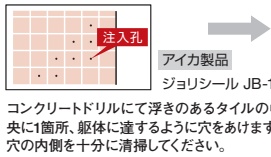
### 2 躯体への下地材固定方法

<p><b>A 鋼製壁</b></p> <p>スタッドは65形以上を使用してください。下地材(せっこうボード等)を専用ビスで200~300mmピッチで固定してください。※枠廻り・出隅・入隅部分の下地材端部は専用ビスで確実に固定してください。</p> <p><b>B RC壁 モルタル仕上げの場合</b></p> <p>モルタルはRC壁に対して接着が良いものを選定し、不陸がないように仕上げてください。※モルタルの含水率が4.5%以下になってから施工してください。(密着強度 1.0N/mm<sup>2</sup>以上・不陸2mm以下・平滑な金ゴテ仕上)</p> <p><b>C RC壁 木胴縁の場合</b></p> <p>24mm×45mm程度の縦胴縁を300mm・横胴縁を450mmピッチで躯体にアンカー・カール・釘で固定し、下地材(せっこうボード等)を専用ビス(300mmピッチ)と接着剤を併用して固定してください。</p>	<p><b>D RC壁 GL工法*の場合</b> *吉野石膏株式会社による工法です。</p> <p>せっこうボードメーカーの仕様を厳守してください。</p> <p>※GLボンドは水性ですので、施工後は養生を充分取ってください。目安として約20日間は養生が必要です。(乾燥したことを確認してから施工してください。)</p> <p>特に、出隅においては、30mm×30mm×0.4mmの垂鉛折りコーナーで補強してください。</p>  <p><b>出隅は垂鉛折りコーナーで確実固定を!</b></p> <p>推奨「垂鉛折りコーナー」 (株) 創建 ☎ 03-5992-6411 品番: 01007</p> <p><b>【施工方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下地材に垂鉛折りコーナー材を速乾ボンドで完全に接着する。</li> <li>2. 垂鉛折りコーナー材に接触しないよう専用仮留めテープを貼付ける。</li> <li>3. 垂鉛折りコーナー材の上、及び専用仮留めテープの内周に専用接着剤 (SE-1) を塗布する。</li> </ol>
--	---

### 1 既存下地に施工する場合

<p><b>施工可能な下地の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● タイル面 (チェック方法: 下記 ②-⑥、⑦ 参照) 〔浮き・ハガレがなく不陸が5mm未満(目安)の場合に限りです。〕</li> <li>● モルタル面 含水率 4.5%以下・密着強度 1.0N/mm<sup>2</sup>以上・平滑な金ゴテ仕上 不陸が2mm以下の場合 → <b>M工法</b> 不陸が2mmを超える場合 → <b>ONタイル工法</b></li> </ul> <p>セラール以外の化粧材でONタイル工法をご検討される場合は、必ず最寄りの当社へお問い合わせください。</p>	<p><b>そのままでは施工できない下地の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 塗装面 → 塗膜の除去、もしくは施工可能な下地材を上貼りする。(ビス固定等)</li> <li>● クロス面 → クロスを除去し、施工可能な下地材を上貼りする。(ビス固定等)</li> <li>● 化粧面 → 化粧部分の除去、もしくは施工可能な(突板・シート・樹脂等)下地材を上貼りする。(ビス固定等)</li> </ul>
---	--

### 2 下地状態のチェック・対処方法

<p><b>A タイル表面の汚れ</b></p> <p>タイル表面の汚れは十分に除去してください。</p> <p><b>B タイル表面の不陸</b></p> <p>右図のように直定規・下げ振り・レーザーレベル等を用いて壁面の水平・垂直の不陸を測定してください。</p> <p>※現下地で施工可能な<b>最大不陸は5mm未満(目安)</b>です。</p> <p>5mmを超える場合は、下地を作製してください。</p> <p>※タイル表面の不陸調整は仮留めテープの貼り増しで行ってください。</p> <p>タイル表面にはプライマーは塗布しないでください。</p> <p><b>下地が凸の場合</b> 水平な定規をあてがい、隙間を測定。</p> <p><b>下地が凹の場合</b> 糸を張り、隙間を測定。</p>  <p><b>C 表面タイルの浮きの有無</b></p> <p>古いタイル壁面では浮き・剥がれの危険が高いため、右図のように打診検査(テストハンマーなどでタイル表面を叩きタイルの異常音を音で判断)でタイルの浮きを調べてください。浮いたり剥がれたタイルは右の方法での補修をお勧めします。</p> 	<p><b>対処方法 エポキシ樹脂モルタルの充填</b></p> <p>比較的小規模なタイル剥離については、剥離部分に充填補修用のエポキシ樹脂モルタルを充填してください。 <b>アイカ製品</b> ジョリシール JB-18L (プライマー・タックコート) と JE-9001 (専用骨材)</p> <p><b>対処方法 モルタルの充填又は全面打設</b></p> <p>比較的小規模なタイル剥離から全面タイルはつりの補修まで幅広い対応が可能です。躯体(コンクリート・ブロック)とモルタルとの密着が悪いと剥離の原因になりますので注意してください。 <b>接着強度: 1.0N/mm<sup>2</sup>以上</b></p> <p><b>対処方法 下地作製</b></p> <p>タイルと付着強度が良好な薄塗りできるモルタルで不陸調整を行うか、6mm以上のけい酸カルシウム板(比重1.0)または、9mm以上のラワン合板で下地を作製してください。 <b>【ご注意】</b> 下地の作製にあたっては、建築基準法、火災予防条例での法令・法規に従って作製してください。</p> <p>※モルタル: 含水率4.5%以下・付着強度1.0N/mm<sup>2</sup>・平滑な金ゴテ仕上 ※けい酸カルシウム板、ラワン合板: 必ず躯体にビス固定してください。 ※下地材をモルタル打設、けい酸カルシウム板、ラワン合板で作製した部分は予めプライマー(アイカ アイボンJW-900N(溶剤系)もしくはRA-900(水系))を全面塗布してください。</p> <p><b>対処方法 ピンニングによる樹脂注入固定</b></p> <p>下図のようにエポキシ樹脂等を浮きのあるタイル部分に注入して、浮き部分の剥離・剥落を防止します。</p>  <p>コンクリートドリルにて浮きのあるタイルの中央に1箇所、躯体に達するように穴をあけます。穴の内側を十分に清掃してください。</p> <p>JB-18をグリズガンにて穴の最深部より充填していき、タイル表面と同じレベルになるまで充填します。樹脂が固まった後、再度打診検査を行い充填状況を確認します。</p> <p><b>注入量: 25~30g/1穴</b></p>
---	---

**② ご注意** 上記に該当しない下地材についての施工の可否は、必ず最寄りの当社へお問い合わせください。